

令和元年9月2日（月曜）長崎新聞

口からの細菌感染を予防

お口の



【問い】胃の手術のために入院予定ですが、主治医から歯科を受診するよう言われました。おなかの手術なのに、なぜ関係ない歯科にかからないといけないのですか？（長崎市、54歳男性）

【答え】医科と歯科が連携し、全身麻酔での手術や化学療法、放射線治療を始める前から、お口の管理を行うことを「周術期等口腔機能管理」といい、近年その効果が重要視されています。

「なぜ？」と思われるかもしれませんが、実は口の中には、むし歯菌や歯周病菌を含め数百種類の細菌がすんでいるといわれています。手術などで体の抵抗力が低下すると、健康なときは問題を起こさない細菌が、肺炎や傷口の感染、血液を介した全身の感染症などの原因となり、体の治療を難しくしたり、長引かせたりすることがあります。

例えば、全身麻酔の手術では口から挿入した管を肺の近くまで入れて呼吸を管理するので、口の中が汚れていると細菌が気管とチューブの隙間

から肺に入り込み、術後の肺炎のリスクが高まります。また、ぐらぐらしている歯があると、抜けたり欠けたりしてしまうことがあります。

そこで、手術前には歯石除去や動揺歯の治療を積極的に行い、手術前後には専門的な口腔ケアで口の中を清潔にしておくことが推奨されているのです。口腔管理により、術後の入院日数は平均23日から同10・8日まで減少するとの調査結果があります。

一方、化学療法や放射線療法を行う患者さんは▽口内炎▽口の渇き▽歯肉からの出血▽味の変化▽顎の骨の壊死（細胞が死んだ状態）などが起こりやすくなります。しかし、口腔管理を行うことで、口腔粘膜炎の発症は29・2%から11・4%に減少すると言われています。

手術前からの口腔管理は大変重要ですが、いざというときに十分な時間がないこともあり得ます。慌てないよう、日頃からかかりつけ歯科医院を受診しておきましょう。

質問をどうぞ

回答者
小関 優作
長崎大学病院総合歯科
診療部歯科医師



歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します（直接本人に回答はしません）。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒8552-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページは「8020ながさき」で検索できますので参考にしてください。